

わたしが
担当者です!!



中心市街地担当主査
寺本 秀昭

初めまして、「寺本」です。市民ワークショップのお手伝いをさせていただいています。この留萌、商店街を何とかしたい。愛する郷土をもっと賑やか、そして誇りを持って語り継いでいけるまちにしたいという出席者の方々の熱い思い、願い、エネルギーには脱毛いや、脱帽です。

この中心市街地活性化の議論は、私たち市民にとってラストチャンスではないでしょうか。同時に、基本計画のとりまとめをする私たち職員にとって「自治体職員としての能力の有無」が問われていると思っています。

この計画は、市民の皆さんに一番身近な市町村がとりまとめをすることになっていますが、市民、事業者、そして、留萌商工会議所など知恵を絞り、汗を出し合って作り上げなければ計画としての意味がありません。

これからのまちづくりは、市民と行政が協働作業として進めていかなければなりません。計画を着実に進めるためにも、市民の皆さんの合意をどれだけ得られるかがかかっています。

第4回ワークショップ 「部品の組み立てよう」

第4回目のテーマは「部品を組み立てよう」。

これは、第3回目で見つけた部品を組み立て、事業化への具体的な提案をしていこうというもの。

今回から、市の若手職員や係長クラスが各テーブルに混ざって議論を具体化していくようです。

さて、どうなったのでしょうか。

Aグループ

「安心、安全なまちづくり」を検討しよう。

【内容】
安心、安全のまちづくりと歩行者にやさしく、楽しい回遊の道の整備を考える。

【具体案】

- 公園、広場や歩道を整備して快適な歩行者のネットワークをつくらう。
- 交通アクセスを考えた駐車場整備をしよう。
- 高齢者や子供たちが安全に歩くことのできる回遊歩道を整備しよう。
- 歩行者にやさしく、歩いて楽しい回遊の道をつくらう。

道路整備は、それぞれ「水」「花」「緑」の回廊、ネットワークとして整備しよう。

重点整備地区のなかでも、さらに「商業再生の重点整備地区」を決めよう。

「商業再生」のキーワードは、「にぎわいのあるコミュニティ空間」にしよう。

コンパクトシヨップ、たとえば商店街再生の「顔」として一坪シヨップが多数店立ち並ぶ特色あるアーケード街をつくらう。

情報発信の場、知恵の館、市民が集う、三百人収容のコミュニティホールをつくらう。

市民、事業者、行政が一体となったコミュニティホールにしよう。

現在の「共同福祉センター」を女性が安心して生活、活動できる地域づくりの核施設にしよう。

Bグループ

「かもめプロジェクト」を検討しよう。

【内容】
まちづくりのテーマを「暇つぶしのできるまち」とし、中心商業地へ歩いて来る人、自転車で来る人、自動車で来る人たちのための整備。

【具体案】
中心商業地を取り巻く自動車道線として、北8条↓東岸通↓北10条↓国道を位置づけよう。

北9条を「カモメ通り」とし、歩行者機能の高い道路と位置づけよう。

カモメ通りの3つの交差点を歩行者滞留スペースと位置づけよう。

「日通」「働く婦人の家」周辺を公共施設ゾーンとして位置づけよう。

Cグループ

「これが理想のシルバーハウスだ」として、高齢者に対応したまちを検討しよう。

【内容】

お年寄りが安心して住むための住環境の整備や自立支援に寄与する施設の設置などをお年寄りの気持ちに立って考える。

【具体案】

- 建物施設をすべてバリアフリー化しよう。
- 救急対応として、広いエレベータを設置しよう。
- 敷地内に共同農場や温室などをつくり、緑や土に触れ合える場をつくらう。
- 施設内に集会場、食堂、針灸

わたしが
担当者です!!



中心市街地担当主査
中林 直彦

「中心市街地」って何だと思いませんか？

皆さん様々なことが頭に浮かぶと思います。法律では、「都市機能や小売商業が相当程度集積している都市の中心市街地」と定義されていますが、私自身は生まれてからほとんど留萌で生活しているので、私たちが言う「まちへ行くこう」、この「まち」が「中心市街地」のイメージです。

子供の頃「まち」へ行くというのと、すぐウキウキして出かけた。そんな記憶が今も残っています。

この仕事を担当して初めのうちは、「中心市街地の活性化って必要なのかなあ」とよく考えました。でも、この留萌に住み続けるのなら、「今のうちに活気がない状態はいやだなあ」「安心で便利で楽しく暮らしていきたい」と考えるようになりまし。もっと格好良く言えば、「このまちに誇りを持って暮らし、未来へ残していきたい」と考えています。

そのために、将来の指針となる基本計画をがんばって皆さんと共に創ろうと思っています。

あんま、ケアセンター、ゲストルームなどを設置しよう。

Dグループ

「お菓子の散歩道づくり」を検討しよう。

【内容】
競争力、質、サービスの向上のため、目で見えるお菓子づくり、食べ歩きのできる場所づくりを検討する。

【具体案】

- 歩行者ネットワーク（雪対策も含む）を確立しよう。
- 高齢者住宅、集合住宅、福祉住宅などで、居住者増加対策をしよう。
- 商業の魅力向上
- 商業の線から面への展開をしよう。
- 人を集める工夫（イベントなど）をしよう。

新規参画者が出入りしやすいシステム(出店リスクの緩和対策)をつくらう。

専門店の集まるゾーンをつくり、にぎわいのきっかけになるものをつくらう。

計画を実際に行動に移すための組織づくりをしよう。

Eグループ

「コンパクトなまちづくり」を検討しよう。

【内容】
コンパクトなまちづくりへの具体策の優先順位を決め実現の方策を決定する。

【具体案】

- 空き店舗の公益化を優先的に実現しよう。
- 空き店舗のシャッターにペンキを塗ることも、すぐ取りかかれるので優先しよう。
- 中心市街地に総合ビルを建て、一階に老人ホーム、二階に幼稚園をつくるなどして、人が集えるような公共施設をつくらう。
- 国道幅は、すぐに着手できることではないが、商店街の再編につながるので、将来的に検討していこう。
- おとしよりを元気にするまちにするため、シルバーハウジング(介護人付高齢者住宅)を長崎屋の近くに建設しよう。
- 子供、高齢者、主婦、家族の楽しみのため、市民が楽しめるオープンスペースをつくらう。

大型店舗出店エリアを2つつくり、大型店舗を核とした準エリアゾーンをつくらう。

駐車場対策は、補助メニューも充実しているので実現しやすい。

まちの主役は市民 なのよ

以上が今までワークショップのなかで話し合われた内容ですが、そこであなたに質問です。

「あなたにとって、『留萌のまち』として『中心市街地』は、どう変わってほしいですか？」

この『中心市街地活性化基本計画』に実効性を持たせるには、いかに多くの『市民合意』が得られるかがかかっています。

計画完成後は、市民参加という計画策定のプロセスを生かすためにも、商工会議所、事業者、地権者を含めた留萌市民が「やる気」と「実行力」を発揮しなければなりません。

まちづくり、それはいったい誰が、誰のためにするものなのでしょう……。

長い間、まちづくりは役所がするものだと思われてきました。まちづくりを市民と行政の協働作業と位置づけ、これからのまちづくりを進めていくことが真に留萌を住みよいまちにすることにつながるのだと思います。

まちの主役は、市民なのですから……。